

JICE 研究開発助成



情報・企画部
首席研究員
田邊 輝行



情報・企画部
主任研究員
山内 能章

1 JICE 研究開発助成の概要

JICE では、平成 11 年度に「JICE 研究開発助成」の制度を創設し、平成 29 年度までに延べ 253 件の研究に対して助成を行ってきた。研究開発助成制度は、各分野の先進的技術の研究開発を促し、住宅・社会資本整備を通じてより良い国土の利用・整備又は保全に寄与することを目的として、JICE の公益事業として実施している。

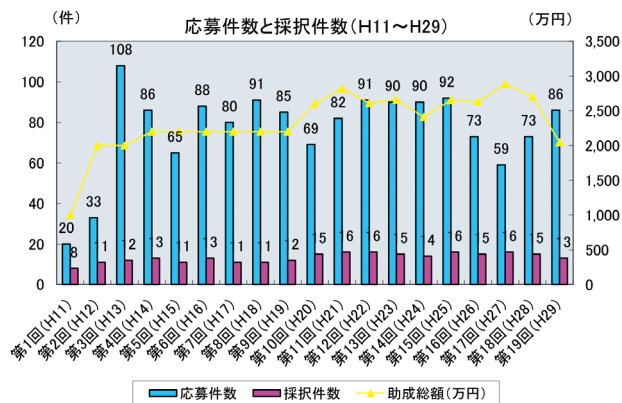


図-1 JICE 研究開発助成 応募件数と採択件数推移

JICE 研究開発助成は、建設分野のみに留まらず、人文系、社会科学系及び自然科学系の分野の研究においても社会資本整備に資するテーマであれば、幅広く研究内容を応募していただくことを考えており、大きくは①応用研究課題、②重点研究課題の2分野の研究課題について公募を行っている。

2 第19回研究開発助成 助成中

平成 29 年度の第 19 回研究開発助成については 86 件（継続研究含む）の応募を受付けた。これらの応募研究に対して、研

究開発助成審査委員会における厳正な審査により優れた研究開発 13 件（継続研究含む）の研究を助成研究として採択し、うち 13 件について研究開発助成の採択がなされ、平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日までの期間において研究が進められているところである。

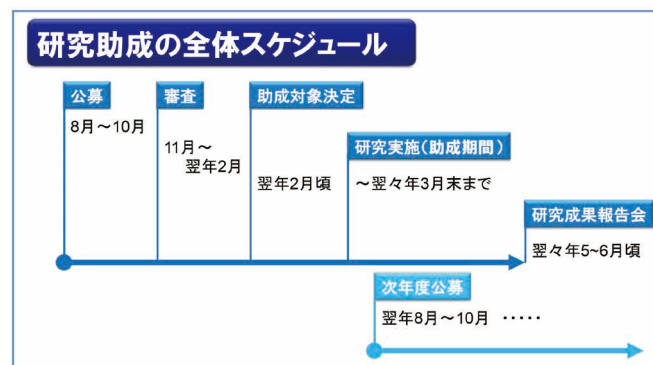


図-2 JICE 研究開発助成 全体スケジュール

3 第20回研究開発助成 募集

平成 30 年度の第 20 回研究開発助成の助成対象の募集は、平成 30 年 8 月 1 日～10 月 31 日で受付を予定している。

助成の対象は、平成 29 年度と同様に住宅・社会資本整備に係わる先進的な研究・技術開発とし、応用研究課題、重点研究課題としてそれぞれ課題を設定している。また、助成対象とする研究者は、原則として大学、高等専門学校及びこれらに付属する機関等の研究者または民間企業の研究者（学生は対象から除外）としており、助成額は 1 件につき原則として単年度 200 万円以内、1 つの研究テーマに対する研究開発助成は 2 ヶ年を限度としている。詳細は、募集開始後に JICE ホームページに掲載するので、是非ご覧いただき、積極的な応募をしていただきたい。

4 第18回研究開発助成 成果報告会

研究開発助成を受けて研究を実施した成果については、その先進的な研究による知見をより多くの皆様に役立てていただくために、例年、発表の場として研究開発助成成果報告会を開催している。

平成28年度第18回研究開発助成を受け、29年度に研究が実施された15件の研究成果については、成果報告会を平成30年6月7日（木）にJICE会議室において開催した。

成果報告会への参加者は、延べ100名におよび、研究に対する質疑や意見交換を行い、新たな技術への関心が寄せられた。

なお、成果報告会は、土木学会認定の継続教育（CPD）プログラムの認定を受け公開にて実施し、専門技術者の継続的な技術研鑽にも活用していただいている。

これらの研究の成果概要、発表資料についてはJICEホームページの研究開発助成事業で掲載しているので、あわせてご覧頂きたい。

(<http://www.jice.or.jp/review/assurances/results>)

表-1 第18回研究開発助成成果報告（平成28年度採択研究）研究課題一覧（発表順：敬称略）

発表順	研究課題名	研究者名	発表順	研究課題名	研究者名
1	土木インフラ維持のための降下火山灰による災害の予測と対策の検討	早稲田大学 理工学術院 創造理工学部 教授 柴山 知也	9	リアルタイム氾濫解析 シミュレーター開発	北海道大学大学院 工学研究院 教授 清水 康行
2	バイオセメントを用いる土の安定化に関する研究	一般社団法人全国宅地 防災技術協会 会長・代表理事 福江 正治	10	社会資本の維持管理を担う 人材の育成方法に関する研究	舞鶴工業高等専門学校 建設システム工学科 教授 玉田 和也
3	MEMS センサを活用した 鋼道路橋の疲労環境評価に 関する研究	東京都市大学 総合研究所 講師 関屋 英彦	11	掘削機械バケットを用いた 地盤調査手法に関する研究	関西大学 社会安全学部 教授 一井 康二
4	積雪地域における道路事業の 適切な評価手法構築に関する 研究	長岡技術科学大学大学院 環境社会基盤工学専攻 助教 伊藤 潤	12	流域と海域を繋ぐ総合的土砂 管理の実現に向けた実践的 フィールド研究	筑波大学 システム情報系 構造エネルギー工学科 教授 武若 聡
5	ネットワーク型施設と拠点型 施設の協調的維持管理に 関する研究	首都大学東京 都市環境科学研究科 教授 伊藤 史子	13	ハザード解析と堤防信頼性 解析を融合した洪水リスク 解析法の開発	新潟大学 自然科学系 准教授 大竹 雄
6	高齢者の活動しやすさを支える 都市のあり方とその評価に 関する研究	大阪大学 CO デザイン・センター 特任教授 土井 勉	14	VGIを用いた国土基盤に係わる 地理空間情報の維持管理に 関する研究	九州大学大学院 比較社会 文化研究院・社会情報部門 教授 山下 潤
7	積雪道路におけるインフラ ライトなレーン誘導システムに 関する研究	秋田県立大学 システム科学技術学部 教授 御室 哲志	15	水害リスクと防災投資の経済 評価のための経済成長モデルの 開発	京都大学 防災研究所 巨大災害研究センター 准教授 横松 宗太
8	出水時の変位モニタリングに よる河川堤防の弱点箇所抽出に 関する研究	山口大学大学院 創成科学研究科 准教授 森 啓年			



写真-1 第18回研究開発助成 成果報告会の様子（平成30年6月7日）